

## 履歴書

**氏名** 祝迫 得夫 (いわいさこ とくお)

**所属／連絡先** 〒186-8603 東京都国立市 中 2-1 一橋大学経済研究所  
Office: 042-580-8373 / Fax: 042-580-8333  
E-mail: iwaisako@ier.hit-u.ac.jp  
Web: <http://www.ier.hit-u.ac.jp/~iwaisako/>

---

### 職歴

2002 年 4 月～現在 一橋大学経済研究所(米欧ロシア経済研究部門) 助教授  
2001 年 4 月～2002 年 3 月 一橋大学経済研究所(米欧ロシア経済研究部門) 講師  
1997 年 9 月～2001 年 3 月 筑波大学社会工学系 講師

### 学歴

1997 年 6 月 ハーバード大学大学院経済学研究科修了, Ph.D.(Economics)取得  
1992 年 9 月 ハーバード大学大学院経済学研究科入学  
1992 年 4 月 一橋大学大学院経済学研究科博士後期課程進学  
1992 年 3 月 一橋大学大学院経済学研究科修士課程修了, 経済学修士取得  
1990 年 4 月 一橋大学大学院経済学研究科修士課程進学  
1990 年 3 月 一橋大学経済学部卒業

**学位** Ph.D. (Harvard University); 経済学修士(一橋大学); 経済学士(一橋大学)

### その他の職歴

2003 年 1 月～2006 年 3 月 東京大学大学院工学系研究科 社会基盤工学専攻  
助教授(併任)  
2003 年 1 月～2003 年 8 月 コロンビア大学ビジネス・スクール 日本経済経営研究所  
客員研究員  
1996 年 8 月～1996 年 11 月 国際通貨基金(IMF)調査部インターン  
1991 年 7 月～1992 年 3 月 日本銀行金融研究所 客員研究生

### 学会・学術誌関係

2006 年 6 月～現在 日本ファイナンス学会理事  
2005 年 10 月～現在 Associate Editor, Asia-Pacific Financial Markets  
2001 年 4 月～2006 年 6 月 編集委員, 『経済研究』

### プロフェッショナル・サービス

2005 年 10 月～2006 年 3 月 財務省国際局「最近の資金フローに関する研究会」  
2004 年 7 月～2005 年 2 月 財務省国際局「最近の資金フローに関する研究会」  
2002 年～2003 年 財務省財務総合研究所「アメリカ経済研究会」メンバー  
2001 年～2002 年 財務省財務総合研究所「わが国のコーポレートファイ  
ナンスとガバナンスに関する研究会」メンバー  
2001 年～2002 年 内閣府経済社会総合研究所「マクロ経済研究検討委員  
会」メンバー  
2000 年 3 月 経済企画庁「開発途上国の経済発展と円借款の役割に  
関する調査委員会」メンバー  
1997 年～1999 年 経済企画庁経済研究所 客員研究員(アジアの経済発展)

### 所属学会

日本経済学会; 日本ファイナンス学会; 日本金融・証券計量・工学学会(JAFEE)  
American Economic Association; American Finance Association; Econometric Society

### レフェリー

#### 英文誌

Asian-Pacific Financial Markets; Economic Journal; Japan and the World Economy; Japanese  
Economic Review; Journal of International Economics; Journal of International Money and  
Finance; Journal of Money, Credit, and Banking; Journal of the Japanese and International  
Economies; Quarterly Review of Economics & Finance.

#### 邦語誌

『経済研究』(一橋大学経済研究所); 『国民経済雑誌』; 『現代ファイナンス』.

### 教育実績

一橋大学(2001 年 4 月以降)

大学院経済学研究科: 上級マクロ経済学; 金融経済論 II; 応用マクロ経済学; 演習  
大学院国際企業戦略研究科(ICS): インターナショナル・ファイナンス

筑波大学(1997年9月-2002年3月)

社会工学類(学部): 社会工学概論及び実習; 金融論; 現代日本経済論

大学院経営・政策科学研究科(修士専修): 金融分析; 多変量解析実習

大学院社会工学研究科: ファイナンシャル・エコノミクス; 資産価格論特論

## 研究業績

### レフェリー付き学術論文

「1920年代のアメリカ経済の構造変化と大恐慌」, 『経済研究』, 第57巻, 第3号(2006年), pp. 260-270.

「リスク変数としての消費: 消費/金融資産比率を用いた条件付き CAPM のテスト」, 『経済研究』, 第54巻(2003年), 第2号, pp.126-136.

「ランダム・ウォーク仮説と規模別ポートフォリオの相互自己相関」, 『現代ファイナンス』, No.13, pp.29-45, 2003年3月.

“Does International Diversification Really Diversify Risks?” *Journal of the Japanese and International Economies* 16 (1), pp.109-134, 2002.

「資産価格が消費に与える影響について: アメリカのケース」, 『経済研究』 第53巻(2002年), 第1号, pp.64-78.

「資産価格モデルの現状: 消費と資産価格の関係を巡って」, 『現代ファイナンス』 No.9, pp.3-39, 2001年3月.

“Explaining Asset Bubbles in Japan,” *Bank of Japan Monetary and Economic Studies*, Vol.14, No.1, pp.143-193, 1996. (伊藤隆敏と共著)

*Essays on Financial Integration*, unpublished Ph.D. thesis, Department of Economics, Harvard University, June 1997. (Thesis Committee: John Y. Campbell [chair], Brian Hall, and Andrew Metrick)

### その他の学術論文

「少子高齢化と家計のポートフォリオ選択」, 高山憲之・斎藤修編 『少子化の経済分析』, 東洋経済新報社、近刊.

「家計のアセット・アロケーション — リスク資産への投資とインフレーションの影響」, 『証券アナリストジャーナル』, 2006年8月、近刊.

「第8章 投資と企業再生」, 伊藤隆敏、ヒュー・パトリック、デビッド・ワインシュタイン編、祝迫得夫監訳 『ポスト平成不況の日本経済: 政策志向アプローチによる分析』, 日本経済新聞社、2005年9月

“Corporate Investment and Restructuring,” in Takatoshi Ito, Hugh Patrick, and David Weinstein eds.,

*Reviving Japan's Economy: Problems and Prescriptions*, Cambridge MA: MIT Press, August 2005.

「日本の株式市場のパズル」『フィナンシャル・レビュー』, 1号 (通巻 70号) 2004年3月, pp. 17—28, 財務省財務総合政策研究所.

「経済成長の実証研究」, 伊藤隆敏・園部哲史編『構造変化を伴う東アジアの成長—新古典派成長論 VS 雁行形態論』, 経済分析 第160号, 第3章, 平成12年(2000年)1月.

「株式投資における自国市場バイアスと国際分散投資」『証券アナリストジャーナル』, 1998年5月, pp.22—32.

### ワーキング・ペーパー

“Consumption-Wealth Ratio and Japanese Stock Market” (with Kohei Aono), mimeo. (paper presented at NFA meeting, June 2006).

“[Strategic Asset Allocation in Japan: An Empirical Evaluation](#)” (with Olivia S. Mitchell and John Piggott) Pension Research Council (Wharton School) WP 2005-1 (January 2005).

“Household Portfolios in Japan,” [NBER working paper #9647](#), April 2003. (Under review)

“Internal Capital Markets of the Japanese Firms” (with Gaku Kobayashi), May 2001.

“Consumption and Recessions: Japan in the 1990s and US during the Great Depression”, September 2000.

“Banking Crises and Monetary Policy: Japan in the 1990s and U.S. in the 1930” (with Michael Bordo and Takatoshi Ito).

### 翻訳

ジャン＝ピエール・ダンシン, ジョン・ドナルドソン著, 祝迫得夫監訳, 可児 滋・佐野実・中田勇人 訳, *Intermediate Financial Theory* (2<sup>nd</sup> ed.), ときわ総合出版, 2006年12月出版予定.

伊藤隆敏, ヒュー・パトリック, デビッド・ワインシュタイン編, 祝迫得夫監訳『ポスト平成不況の日本経済: 政策志向アプローチによる分析』, 日本経済新聞社, 2005年9月.

ジョン・キャンベル, アンドリュー・ロー, クレイグ・マッキンレイ著, 祝迫得夫・大橋和彦・中村信弘・本多俊毅・和田 賢治 訳『ファイナンスのための計量分析』 共立出版, 2003年9月.

マーティン・フェルドシュタイン編 伊藤隆敏監訳, 伊藤隆敏・祝迫得夫・中村洋 訳『経済危機—金融恐慌は来るか』 東洋経済新報社, 1992年10月.

### 学会誌での書評

Cochrane, John H. [2001], *Asset Pricing*, Princeton University Press, 『経済研究』 52巻4号(2001年), pp. 375-377.

Posen, Adam. S. [1998] *Restoring Japan's Economic Growth*, Institute for International Economics, *Journal of Asian Business*, 2000.

一般向け論文

「金融資産、不動産、人的資本、総合的なバランスで運用を：低成長時代こそ、長期的運用に注目しよう」『資産形成ハンドブック』日経ビジネス 2001年3月19日号付録.

「株価ブームと実体経済：過去二十年間の日米の経験の比較」浜田宏一編『計量的手法によるマクロ経済研究』マクロ経済研究検討委員会中間取りまとめ, 2002年3月, 内閣府経済総合研究所.